

(様式1)

# 高知県英語教育改善プラン

## 実施内容

## (1) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

※現状の数値については2019年度の実績

①「CAN-DOリスト」の形式で技能別に設定した学習到達目標の整備状況（設定・公表及び達成状況の把握等の状況）	
【現状】	・学習到達目標の整備状況（高等学校 設定100% 公表82.5% 達成状況の把握72.5%） （中学校 設定 100% 公表 23.6% 達成状況の把握 63.2%）
【課題】	・パフォーマンステストを含めた学習評価によって達成状況を把握することを通して、指導と評価の改善に役立てることができていない。 ・「英語を用いて何ができるようになるか」を児童生徒に明確に示し、見通しをもって主体的に学習に取り組ませることが十分できていない。
【目標】	・令和3年度 小学校 設定・公表・達成状況の把握…90% 高等学校・中学校 公表…100% 達成状況の把握…100%
【方策】	・高等学校、中学校ともに、平成27年度段階で「CAN-DOリスト」の作成については100%を達成している。今後は、学校支援訪問の際に公開する授業の学習指導案に「CAN-DOリスト」形式の学習到達目標を位置付けさせるとともに、その評価方法についても指導・助言を行う。また、各校が生徒や保護者等に「CAN-DOリスト」を公表することの意義についても周知する。 ・中学校では、パフォーマンステストを実施する際には、高知県教育委員会作成の『高知県英語4技能評価テスト集』の活用が有効であることを様々な研修の場で周知し、活用促進及び達成状況の把握率を高める。 ・「CAN-DOリスト」形式の学習到達目標を年間指導計画等に位置付け、評価規準や評価方法と有機的に連動させるとともに、児童生徒による学習の振り返りに活用する。 ・高等学校では、各校が作成する「学力向上プラン」の中に「CAN-DOリスト」の公表時期と学習到達目標の達成状況の把握方法の記入欄を設ける。
②生徒の授業における英語による言語活動時間の占める割合	
【現状】	・生徒が英語による言語活動を授業時間の50%以上行っている割合 （高等学校 59.7% 中学校 87.9%）
【課題】	・表現や語句を繰り返し使うためだけの練習に時間を費やし、目的、場面、状況を明確にした質の高い言語活動に至っていない。
【目標】	・令和3年度 高等学校 70% 中学校 100% 令和4年度 高等学校 75% 中学校 100%
【方策】	・生徒の言語活動の割合及び英語担当教員の英語使用量を増加させるため、英語教育推進リーダーによる公開授業や研修を通して、英語による授業の進め方や効果的な言語活動の在り方について理解を深め、授業力の向上を図る。 〔小・中学校〕 ・学習指導要領の趣旨に沿った資質・能力ベースの授業づくりを目指し、拠点校において、「授業づくり講座」を実施する。また、新型コロナウイルス感染症拡大の恐れがある場合においても、各地域における研究が止まることのないよう、リモートによる研修を行い、自ら学び続け、共に高め合う教員の育成を行う。 《「授業づくり講座」》 ①教材研究会（教材分析、単元づくり及び授業についての協議、講師からの助言） ②授業研究会（①で検討した指導案を基に授業実践、協議、講師からの助言） ※①②を1セットとして年2セット実施し、授業づくりのプロセスを学ぶ。 ※誰でも参加することができるよう、全ての授業づくり講座を公開する。 ※中学校英語教員については学校悉皆（1回）とする。 ・研修協力校（4小学校）における公開授業のうち、1回を「授業改善研修」に位置付け、県全域に発信する。公開授業では、学習指導要領の趣旨を実現した「言語活動を通して資質・能力を身に付ける」授業の実践を参加者全員で学ぶ。 〔高等学校〕

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導主事等による参観授業後の協議の中で、複数の領域を結び付けた統合的な言語活動の実践例を紹介し、言語活動の充実を図る。</li> </ul>
<b>③パフォーマンステストの実施状況</b>	
<b>【現状】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スピーキングテストの実施回数（高等学校 2.6回 中学校 3.8回）</li> <li>・ライティングテストの実施回数（高等学校 2.6回 中学校 2.4回）</li> </ul>
<b>【課題】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導した成果を適切に測る方法の理解及び実施が十分でない。</li> </ul>
<b>【目標】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度 高等学校 スピーキングテスト4回 ライティングテスト4回 中学校 スピーキングテスト5回 ライティングテスト5回</li> <li>・令和4年度 高等学校 スピーキングテスト5回 ライティングテスト5回 中学校 スピーキングテスト5回 ライティングテスト5回</li> </ul>
<b>【方策】</b>	<p>[中学校]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校支援訪問や「授業づくり講座」を通して、「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標の設定及び達成状況の把握を意識させ、指導と評価の一体化を図る。</li> <li>・「授業づくり講座」及び「外国語オンライン研修」を通して、「話すこと」及び「書くこと」の言語活動や評価の在り方について理解を深め、授業改善に努める。</li> <li>・パフォーマンス評価の回数を増やし、評価に占める割合を増やす。</li> <li>・県教育委員会作成の『高知県英語4技能評価テスト集』の活用を促進する。</li> </ul> <p>[高等学校]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各単元の目標及び「CAN-DOリスト」との関連、年間評価計画が把握できる年間指導計画を作成、活用を促す。</li> <li>・「CAN-DOリスト」形式で示した目標が達成できているかどうかを把握するために、パフォーマンステストを実施し、その到達状況を把握する。</li> <li>・「高校生のための学びの基礎診断」の結果を踏まえ、各校において「学力向上プラン」を作成し、学力向上の取組やパフォーマンステスト（「話すこと」・「書くこと」）の実施状況等について定期的に進捗状況の確認を行うとともに、内容の充実を図るための指導・助言を行う。</li> </ul>
<b>④英語担当教員の授業における英語使用状況</b>	
<b>【現状】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員が発話の50%以上を英語で行っている割合（高等学校 67.7% 中学校 87.9%）</li> </ul>
<b>【課題】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員が英語で授業を行うことの意義を十分理解しておらず、「授業を英語で行う」と答えた教員の中にも、英語使用が指示の場面に限られていることが多い。</li> </ul>
<b>【目標】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度 高等学校 73% 中学校 100%</li> <li>・令和4年度 高等学校 75% 中学校 100%</li> </ul>
<b>【方策】</b>	<p>[中学校]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国学力・学習状況調査結果や高知県学力定着状況調査結果等で明らかになった学力課題を解決するため、全中学校を指導主事が訪問（年1回以上）し、資質・能力を育むための授業づくりを支援する。各校においては「授業改善プラン」を作成・実施し、英語科としての課題や目標を明確に持ち、その改善や実現に向けた取組を行う。また、管理職が必ず「授業改善プラン」の進捗管理を行い、組織的に授業改善に取り組む。</li> <li>・「授業づくり講座」及び「外国語オンライン研修」を通して、英語による授業の進め方や効果的な言語活動について理解を深め、生徒の言語活動の割合及び英語担当教員の英語使用量を増加させる。</li> <li>・研修において教員の英語力を高め、外部検定試験受験を奨励する。</li> </ul> <p>[高等学校]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程研究協議会において大学教授等の外部講師による学習指導要領の趣旨を踏まえたワークショップ等の実施及び授業改善に向けた協議等を実施することにより、指導力の向上を図る。</li> <li>・英語教育推進リーダーによる公開授業を実施し、授業改善及び英語運用能力の向上を図る。</li> </ul>
<b>⑤求められる英語力を有する担当教員の全担当教員に占める割合</b>	
<b>【現状】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・求められる英語力を有する教員の割合（高等学校 77.8% 中学校 30.7%）</li> </ul>

<p>【課題】</p> <p>【目標】</p> <p>【方策】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の英語力が生徒の言語活動の質を高め、生徒の英語力向上につながるという意識が弱い。また、成果につながる効果的な研修となっていない。</li> <li>・令和3年度 高等学校 83% 中学校 45% 令和4年度 高等学校 85% 中学校 50%</li> <li>・「外国語オンライン研修」を通して、教員自身が英語による講義やモデル授業を体験し、教員が英語で授業を行うことにより生徒のコミュニケーション力が高まることを実感する。また、言語活動を通して資質・能力を育成するための効果的な指導法について理解を深める。研修受講後、中学校教員を対象に英語運用能力を測る外部検定試験を実施する。</li> <li>・小学校の英語専科教員及び加配教員が言語活動を通して資質・能力を育成する授業づくりを行うための研修を充実させる。</li> </ul>
<p>⑥求められる英語力を有する生徒の全生徒に占める割合</p>	
<p>【現状】</p> <p>【課題】</p> <p>【目標】</p> <p>【方策】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・求められる英語力を有する生徒の割合（高等学校 33.2% 中学校 36.6%）</li> <li>・付きたい力を明確にした指導とその指導の成果を的確に測るテストの実施が十分でない。英語の基礎である語彙や表現の定着を図るにあたり、家庭における学習量が不足している。また、学習の質にも課題がある。</li> <li>・令和3年度 高等学校 45% 中学校 50% 令和4年度 高等学校・中学校 50%</li> <li>・学習指導要領の改訂に伴い、令和2年度に改訂した「高知県英語教育推進のためのガイドライン」に基づく数値目標や目標達成に向けた行動指針、行動計画を基に、県全体で英語教育を推進する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>[小・中学校]</li> <li>・英語担当教員の指導力の向上を目指した研修を実施する。更に、授業づくりのプロセスを学ぶための「授業づくり講座」を、県内4小学校及び5中学校を拠点に実施することで、自ら主体的、日常的に学ぶ教員の育成及び県全体としての授業改善の風土づくりを行う。</li> <li>[中学校]</li> <li>・「授業改善プラン」（学校ごとの英語力向上に向けたPDCAサイクル）に基づいた指導主事による学校支援訪問（授業公開・プランを基に協議）を実施する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>①「高知県学力定着状況調査」の実施 年1回、中学1・2年生を対象として、4技能のうち「聞く・読む・書く」の3技能の状況を調査</li> <li>②『高知県英語4技能評価テスト集』の活用促進 学習指導要領に示された英語力を確実に身に付けるために、本テスト集を活用して、定期テスト等よりも短いスパンで定着状況を測り、指導の効果を適切に評価し、指導に生かす。</li> </ol> </li> <li>・デジタル技術を活用した「学校の新しい学習スタイル」の構築 生徒一人一人の学習進度や学習定着状況に応じて学ぶ力を引き出す最適な個別指導を実現する。個々の理解に合わせて段階的に学習を進められる教材や、一人一人の学習定着度を把握し学習指導に活用できるスタディログ等を組み合わせた「学習支援プラットフォーム」により、個々の強みを伸ばし、つまづきをサポートする個別指導を実践する。また、教員の働き方改革では、タブレットとプラットフォーム機能の徹底活用により、学習指導の大幅な効率化を実現する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>【デジタル教材】の一例 <ul style="list-style-type: none"> <li>・『高知県英語4技能評価テスト集』中学校版 平成27・28年度実施の「英語教育改善のための英語力調査」で公表されている調査問題を参考にした4技能（5領域）を測るテスト問題が全6回（定期テストの回数＋学年末）分と各回の練習問題で構成</li> <li>・『高知これ単2500語』中学校版 36のカテゴリーからなる中学校3年間で身に付けてほしい英単語のチャレンジ問題に定期的に挑戦しながら、語彙を習得するための単語集</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『Kochi 使える広がる Fun! Fun!えいご』小学校版 小学生が英語を使って伝えたいことを表現する際に役立つ語彙を選定し、言語活動を通して語彙や表現を身に付けていけるよう、簡単な英語でのやりとり (Small Talk) を含めた児童用単語集</li> </ul> <p>[高等学校]</p> <p>学力向上推進事業 (「学校支援チーム」による指導・助言)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導主事等による定期的な学校訪問を行い、授業参観及びその後行う協議を通じて学習指導要領で求められている言語活動の充実に向けた指導・助言を行う。また、教員の英語使用の増加が生徒の英語使用の増加に結び付くことを周知する。</li> <li>・学校訪問時に、学力定着把握検査 (「高校生のための学びの基礎診断」) の分析結果等に基づき作成した「学力向上プラン」を活用し、授業改善のための PDCA サイクルがうまく回っているかを協議する。</li> <li>・ICT 機器の積極的活用を促進し、言語活動の充実を図る。</li> </ul> <p>教育課程研究協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度までに全ての県立学校教諭・常勤講師に指導主事から新学習指導要領についての趣旨を直接説明し、周知・徹底を図る。</li> <li>・英語科教員の指導力向上を図るため、授業改善に向けた協議等を実施するとともに、大学教授等の外部講師による新学習指導要領の趣旨を踏まえたワークショップ等を実施する。</li> </ul>
<p><b>⑦域内小学校における相応の英語力を有する教員の割合</b></p>	
<p>【現状】</p> <p>【課題】</p> <p>【目標】</p> <p>【方策】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CEFR B2 レベル相当の英語力を有する教員の割合 (0.6%)</li> <li>・CEFR A2 レベル程度の英語力を有する教員の割合 (3%)</li> </ul> <p>・教員の英語力が児童の言語活動の質を高めるという意識が弱い。</p> <p>・令和3年度 CEFR A2 レベル程度の英語力を有する教員の割合 (35%)</p> <p>・外国語オンライン研修を通して小学校教員の英語力向上を図る。</p> <p>・県内小学校4校を拠点校として位置付けた「授業づくり講座」において、授業者が積極的に英語を使用する授業を公開することで、小学校教員に英語力向上の啓発を図る。</p> <p>・小学校における加配教員を対象に、小学校における教員の授業力の向上を図るための研修を実施することにより、授業力・英語力のスキルアップを図る。</p> <p>・英語教育改善プラン推進事業における研修協力校に4小学校を指定し、各校で学習指導要領の趣旨を具現化し、指導と評価の一体化が図られた授業づくりの研究を行う。また、その研究成果を県内に広く普及し、英語教育の質を充実させる。</p>
<p><b>⑧新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合</b></p>	
<p>【現状】</p> <p>【課題】</p> <p>【目標】</p> <p>【方策】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合 (10.6%)</li> </ul> <p>・採用試験について大学生に周知する機会が少なかった。</p> <p>・令和3年度 新規採用者のうち一定の英語力を有する教員の割合 (30%)</p> <p>令和7年度 新規採用者のうち一定の英語力を有する教員の割合 (50%)</p> <p>・高知県公立学校教員採用候補者選考審査において加点制度を導入し、「小学校教諭」受験者のうち、中学校教諭「英語」の普通免許状 (取得見込みを含む) を有する者や一定の英語力を有する者を加点対象とし、一定の英語力を有する者の人材確保に努める。</p> <p>・採用試験に係る説明会では主に大学3・4年生が対象となるが、1・2年生にも周知していく。また、新型コロナウイルス感染症拡大により説明会が行えない場合でも、動画や資料を作成し、周知していく。</p>

## (2) 研修の体系と内容の具体

## 【研修の体系】

外部専門機関と高知県教育委員会とで、高知英語教育推進委員会を組織する。推進委員会の委員がそれぞれの研修について指導・助言等を行い、更に研修の内容を深め、研修効果を高める。また、学校支援訪問等において、実際の授業に研修の内容が活かされているかという視点からも評価を行う。9月に中間評価、2月に総括の英語教育推進委員会の会議を行い、各研修等の目標達成状況等から成果と課題を確認し、改善のための方策を考える。その方策を次の研修内容に反映させるなどして、適切にPDCAサイクルを回す。

## 【研修内容の具体】

研 修 名： 英語教員エンパワーメントセミナー

研修対象者： 小学校教員、中学校・高等学校・特別支援学校英語教員（希望者）

研 修 目 的： ・英語教育に関する専門的な知識の習得と実践的指導力の向上を図る。  
 ・小中高の教員が交流して協議や演習を行うことで、小中高の連携を図り、児童生徒の学びを接続するための指導法を共有する。  
 ・教育研究団体と連携して研修を実施することにより、自主研修組織の活性化を図る。

内 容： 外部講師によるワークショップ

受講予定者数： 60名程度

研修の評価方法： 参加教員によるアンケート

次年度以降： 小中高の教員が交流できる自主研修組織を活性化させるため、継続実施予定

外部専門機関及び研修協力校との関わり： 大学教授からの助言・指導・講義等（講師は未定）

研 修 名： 英語教育研究大会

研修対象者： 小学校教員、中学校・高等学校・特別支援学校英語教員（希望者）

研 修 目 的： ・英語教育に関する専門的な知識の習得と実践的指導力の向上を図る。  
 ・小中高の教員が交流して協議や演習を行うことで、小中高の連携を図り、児童生徒の学びを接続するための指導法を共有する。  
 ・教育研究団体と連携して研修を実施することにより、自主研修組織の活性化を図る。

内 容： 実践発表、外部講師によるワークショップ

受講予定者数： 60名程度

研修の評価方法： 参加教員によるアンケート

次年度以降： 小中高の教員が交流できる自主研修組織を活性化させるため、継続実施予定

外部専門機関及び研修協力校との関わり： 大学教授等による助言・指導・講義等（講師は未定）

研 修 名： 小・中学校「授業づくり講座」

研修対象者： 県内全ての教員（悉皆対象者は中学校英語教員）

研 修 目 的： ・学習指導要領に沿った英語の授業づくりのプロセスについて学ぶことで、自ら学び続ける教員の育成と英語指導力の向上を図る。  
 ・教師自らが自身の授業力を磨き高めたいという自動詞的更新を支え、資質・能力ベースの授業づくりに積極的にチャレンジする文化を構築する。

内 容： ①教材研究会（模擬授業、単元計画及び授業についての協議、講師からの助言）

②授業研究会（①で検討した指導案を基に授業実践、協議、講師からの助言）

※①②を1セットとして年2セット実施する。

受講予定者数： 講座により異なる

研修の評価方法： 参加教員によるアンケート

次年度以降： 継続実施予定

外部専門機関及び研修協力校との関わり： 文部科学省視学官及び調査官等の継続した指導・助言

**研 修 名：** 小学校「授業改善研修」  
**研修対象者：** 県内全ての教員  
**研 修 目 的：**

- ・英語教育に関する教科の専門性と学習指導要領の趣旨を実現した指導と評価の一体化を図った授業について学ぶことで、教員自身の主体的な授業改善を推進する。
- ・教員が所属や校種等の枠を越えて、共に学び合い、つながりを構築できる研修とする。

**内 容：** ①研修協力校による提案授業  
 ②研究協議  
 ③県教育委員会による指導・助言  
 ④講師による講演  
**受講予定者数：** 希望参加もいるため研修により異なる  
**研修の評価方法：** 参加教員によるアンケート  
**次年度以降：** 継続実施予定  
**外部専門機関及び研修協力校との関わり：** 研修協力校の提案授業をもとに協議  
 文部科学省調査官等及び県内外大学教授の継続した指導・助言等

**研 修 名：** 外国語オンライン研修  
**研修対象者：** 小学校教員（20名）、中学校英語教員（20名）、高等学校英語教員（10名）  
**研 修 目 的：** 児童生徒の「話すこと」「書くこと」といった発信型の技能における課題を解決するため、専門機関による研修プログラム（動画等の視聴、リアルタイムの講義やディスカッションへの参加、授業実践等）を通して、英語教授法等の理論に基づいた効果的な指導法を身に付けるとともに、教員の英語力の向上を図る。  
**内 容：** 日常的なオンライン研修、公開授業及び校内研修  
**受講予定者数：** 50名  
**研修の評価方法：** 受講者によるアンケート及び外部検定試験での英語力検証  
**次年度以降：** 継続実施予定  
**外部専門機関及び研修協力校との関わり：** 文部科学省が委託したプログラム開発者からの研修プログラムの提供及び実施に対する支援

**研 修 名：** 外国語オンライン研修（集合研修）  
**研修対象者：** 中学校英語教員  
**研 修 目 的：**

- ・英語教育に関する専門的な知識の習得と実践的指導力の向上を図る。
- ・言語活動を通して資質・能力を育成するための効果的な指導法について理解を深める。

**内 容：** 受講者による授業実践交流、英語教育推進リーダーによる実践発表  
**受講予定者数：** 20名  
**研修の評価方法：** 参加教員によるアンケート  
**次年度以降：** 中学校英語教員の指導力及び英語力を向上させるため、継続実施予定

**研 修 名：** 高知県外国語指導助手指導力等向上研修  
**研修対象者：** 外国語指導助手、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校英語教員  
**研 修 目 的：** 「語学指導等を行う外国青年招致事業」（「JETプログラム」）による招致外国青年のうち、市町村（学校組合）立学校及び県立学校において語学指導に従事する者（「外国語指導助手」）に対し、一層効果的な語学指導をするために必要な知識・指導技術等を習得させるとともに、外国語教育に係る諸問題について研究協議を行い、本県の外国語教育の充実を図る。  
**内 容：** 外部講師によるワークショップ

受講予定者数： 160名程度（日本人英語教員含む）

研修の評価方法： 参加教員によるアンケート

次年度以降： 継続実施予定

外部専門機関及び研修協力校との関わり： 高知工科大学 長崎政浩教授、高知大学教職大学院 是永かな子教授、国際教養大学 内田浩樹教授からの助言・指導・講義等

.....  
研 修 名： 小学校英語指導力向上研修

研修対象者： 小学校教員（研修協力校加配教員及び英語専科）

研 修 目 的： ・英語教育に関する専門的な知識の習得と実践的指導力を向上させる。  
・言語活動を通して資質・能力を育成するための効果的な指導法について理解を深める。

内 容： 授業力向上講座の実施

受講予定者数： 19名

研修の評価方法： 参加教員によるアンケート

次年度以降： 小学校英語教員の指導力及び英語力を向上させるため、継続実施予定

外部専門機関及び研修協力校との関わり： 外部講師からの助言・指導・講義

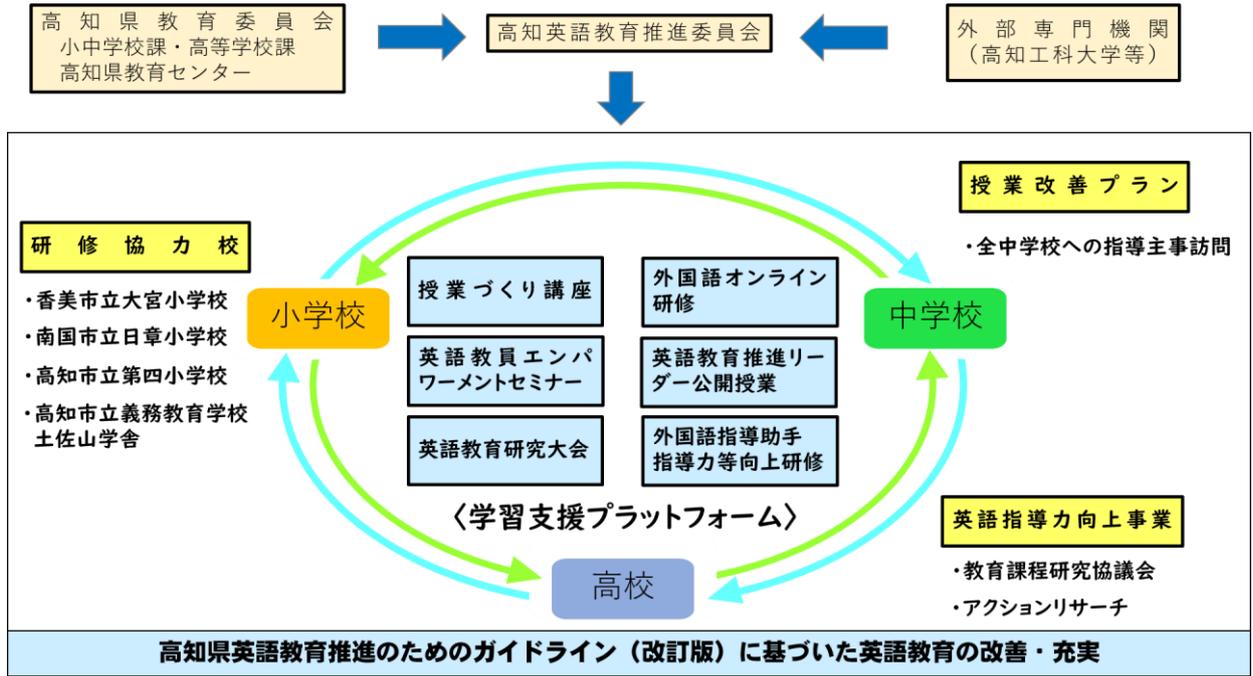
(3) 年間事業計画

月	都道府県等の取組	外部専門機関等
4月		文部科学省 直山木綿子視学官
5月	高知英語教育推進委員会	高知工科大学 長崎政浩教授
6月		
7月	英語教員エンパワーメントセミナー 小学校英語指導力向上研修（第1回）	大学等外部講師
8月	教育課程研究協議会（高等学校外国語）	
9月	高知英語教育推進委員会	高知工科大学 長崎政浩教授
10月	高知県外国語指導助手指導力等 向上研修（新規ALT対象）	高知工科大学 長崎政浩教授
11月	小学校英語指導力向上研修（第2回）	
12月	高知県外国語指導助手指導力等 向上研修  英語教育研究大会 中学校外国語オンライン研修（集合研修）	高知工科大学 長崎政浩教授 高知大学教職大学院 是永かな子教授 国際教養大学 内田浩樹教授 大学等外部講師
1月	小学校英語指導力向上研修（第3回）	
2月	教育課程研究協議会（高等学校外国語） 高知英語教育推進委員会	大学等外部講師 高知工科大学 長崎政浩教授
3月		

・研修協力校における授業改善研修（公開授業）  
・推進リーダーによる授業公開  
・学校支援チームの高等学校訪問  
・拠点校での授業づくり講座実施

【講師】  
中：文部科学省  
山田誠志調査官  
東京家政大学  
太田洋教授  
小：文部科学省  
直山木綿子視学官  
・外国語オンライン研修、受講者の公開授業及び校内研修

(4) 研修体制の概要



高知県教育委員会

※表中、斜線部は記入不要。計画段階では目標値のみ記入。

校種	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022			
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値		
高等学校	①学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100		
		公表(%)	100	87.5	100	82.5	100	100	100	100	100		
		達成状況の把握(%)	100	75	100	72.5	100	100	100	100	100		
	②生徒の授業における英語による言語活	65	47.7	65	59.7	65	65	70	70	75	75		
	③パフォーマンステストの実施状況												
	現行課程	○スピーキングテスト(回)	コミュニケーション英語Ⅰ	4	1.9	4	2.8	4	4	4	5	5	
			コミュニケーション英語Ⅱ	4	1.8	4	3	4	4	4	5	5	
			コミュニケーション英語Ⅲ	4	1.5	4	2.4	4	4	4	5	5	
			英語表現Ⅰ	4	2.3	4	2.6	4	4	5	5	5	
			英語表現Ⅱ	4	2.6	4	2.3	4	4	5	5	5	
			ライティングテスト(回)	3	2.6	3	2.6	4	4	4	5	5	
		○ライティングテスト(回)	コミュニケーション英語Ⅰ	3	2	3	2.5	4	4	4	5	5	
			コミュニケーション英語Ⅱ	3	1.6	3	2.3	4	4	4	5	5	
			コミュニケーション英語Ⅲ	3	2	4	3	4	4	5	5	5	
			英語表現Ⅰ	3	4.4	5	2.5	4	4	5	5	5	
			英語表現Ⅱ										
			英語表現Ⅲ										
	新課程	○スピーキングテスト(回)	英語コミュニケーションⅠ									5	
			英語コミュニケーションⅡ										
			英語コミュニケーションⅢ										
論理・表現Ⅰ											5		
論理・表現Ⅱ													
論理・表現Ⅲ													
○ライティングテスト(回)	英語コミュニケーションⅠ										5		
	英語コミュニケーションⅡ												
	英語コミュニケーションⅢ												
論理・表現Ⅰ										5			
論理・表現Ⅱ													
論理・表現Ⅲ													
④英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	60	58.2	65	67.7	70	70	73	73	75	75			
⑤求められる英語力を有する英語担当教員の割合(%)	70	70.4	75	77.8	80	80	83	83	85	85			
⑥求められる英語力を有する生徒の割合(%)	40	32.8	40	33.2	40	40	45	45	50	50			

校種	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100
		公表(%)	100	21.7	100	23.6	100	100	100	100	100
		達成状況の把握(%)	100	58.5	100	63.2	100	100	100	100	100
	②生徒の授業における英語による言語活動時間の割合(%)	100	82.2	100	87.9	100	100	100	100	100	100
		③パフォーマンステストの実施状況	5	3.6	5	3.8	5	5	5	5	5
	ライティングテスト(回)	5	2.3	5	2.4	5	5	5	5	5	5
		④英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	100	83.9	100	87.9	100	100	100	100	100
	⑤求められる英語力を有する英語担当教員の割合(%)	40	28.5	40	30.7	40	40	45	45	50	50
⑥求められる英語力を有する生徒の割合(%)	45	33.9	45	36.6	45	45	50	50	50	50	

校種	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	学習到達目標の整備状況	設定(%)					80	90	100	100	100
		公表(%)					80	90	100	100	100
		達成状況の把握(%)					80	90	100	100	100

独自No.	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022	
		目標値	達成値								
小学校	⑦ CEFR A2レベル程度の英語力を有する英語担当教員の割合(%)			10	3	10	10	35	35	50	50